

6月放送総局長定例記者会見要旨

(1) 東京五輪について

【放送計画】 (正籙放送総局長)

東京オリンピックの開会式まで、今日で1か月となった。今回のオリンピックは、新型コロナウイルスと闘いながらの、いつもと異なるオリンピックになる。NHKでは、アスリートの皆さんがコロナウイルスと向き合って来た軌跡を丁寧にお伝えし、日本だけでなく海外のアスリートを応援する取り組みを行うなど、さまざまな工夫をしてお伝えしたいと考えている。また大会期間中も、感染状況などコロナウイルスの最新情報については、ニュースの中で丁寧にお伝えしていく。また災害など、皆さまの安全安心に関わるものを含む重要なニュースがあった場合は、柔軟な編成で対応する。

まず、オリンピックの放送計画について。詳細な放送計画については引き続き検討中で、今回は概要をお伝えしたい。

総合テレビの全体像

総合テレビでは、大会期間中の朝、連続テレビ小説に続いて、ふだん「あさいち」などを放送している時間帯に、その日のオリンピックの見どころを伝える番組「あさナビ」を放送する。「あさいち」と同様、親しみやすい演出で選手の素顔に迫り、コロナ禍の大会に出場する選手たちの思いも紹介していく。「あさナビ」に続いては、途中ニュースなどを挟みながら夜10時過ぎまで、さまざまな競技を生中継でお伝えする。そして、競技が終了した後は、「デイリーハイライト」でいち早く、その日の競技の結果やメダルを獲得した選手のインタビューなどをお伝えするほか、メダリストがコロナ禍と向き合った日々にも迫る。

競技中継については、総合テレビ、Eテレ、BS、ラジオなど6つの放送波を使ってお届けする。

地上波 (総合・Eテレ)

まず、総合テレビとEテレの地上波で放送する主な競技。総合テレビの競技中継は、7月21日のソフトボール日本代表の初戦、オーストラリア戦から始まる。開会式は23日夜8時。翌日から、柔道、競泳、体操、卓球など、日本のメダル獲得に期待がかかる、関心の高い競技を中心とした編成を検討中だ。Eテレでは、スケートボード、スポーツクライミングなど、若者に人気の新競技も中継する予定。総合テレビとEテレで放送される競技は、NHKプラスでもご覧いただける。

BS1

BS1では、地上波でお伝えしきれなかった日本人選手の活躍や世界最高峰のアスリート達の戦いを、生放送と録画放送で24時間放送する。

BS4K・BS8K

BS4K、BS8Kは、実用放送が始まって初めてのオリンピック放送となる。家にいながらにして、競技場で観戦するかのような臨場感を体感していただきたい。BS4Kは、総合テレビとのサイマル放送を行う。総合テレビで中継される注目競技を、超高精細映像でお伝えする。BS8Kでは、開閉会式ほか競泳、陸上、柔道など7つの競技をお伝えする予定だ。

R1

ラジオ第1では、競泳や陸上など8つの競技を中継でお伝えする。NHKネットラジオ「らじる★らじる」や、ネットラジオ「radiko」でもリアルタイムでお聴き頂ける。

テレビ・ラジオの詳細な放送計画については、今、コロナ禍で組み合わせ等まだ決まっていない競技もあるので、まとまり次第発表させていただく。

こうした放送をお届けするにあたって、コロナ禍の中で開かれる大会としての試みも、さまざま行う。例えば、日本代表選手全員にアンケート調査を行う予定だ。コロナ禍の中でどのような困難と向き合ってきたかや大会にかける思いを聞き、放送やウェブサイトなどで紹介していく。またNHKでは「世界を応援しよう！」プロジェクトを展開中だ。日本だと「ニッポンチャチャチャ」、アメリカなら「U・S・A U・S・A」といったように、世界各国・地域には、それぞれ独特の応援コールがある。それをホームページに実演動画とともに掲載している。海外の観客が来られない中、こうした応援コールを放送でも紹介して多くの方に覚えていただき、テレビの前などで、日本選手だけでなく外国選手にも声援を送っていただければと考えている。視聴者の皆さんが応援する様子の動画投稿も募集している。

**【NHKスペシャル 「卓球 伊藤美誠 ～譲れない道～」
「最強 日本バドミントン ～密着 桃田賢斗・フクヒロペア～」
「体操ニッポン コロナ禍の“大逆転”へ」】 (小池副総局長)**

続いて私から、7月に放送する東京オリンピック関連の「NHKスペシャル」について、ご紹介する。新型コロナウイルスの感染拡大によって、1年延期されたオリンピック。極めて異例な事態に翻弄されながらも、アスリートたちは黙々と練習に打ち込んできた。NHKでは、メダル獲得が期待される選手たちを長期取材、その苦闘と挑戦の日々を3回にわたってお伝えする。7月17日に放送するのは、「卓球」の伊藤美誠選手。新型コロナの影響で国際大会が全て中止となり、一時、目標を見失った。さらに、オリンピックの開催を巡って社会で賛否が分かれる中、「自分は何のために闘うのか」自問自答を繰り返した。アスリートとしてどう心の整理をつけたのか、そして、最大の難敵である中国の選手にどう挑もうとしているのか、密着取材でお伝えする。翌日18日は、世界最強と評される「バドミントン」。ともに世界ランキング1位の、男子シングルス・桃田賢斗選手と、女子ダブルスの福島由紀選手・廣田彩花選手、フクヒロペアを取り上げる。それぞれの選手たちが、立ちはだかる壁をどう乗り越え、今、オリンピックに挑もうとしているのか、そして、どんな戦略で金メダルを目指しているのか、頂点を目指す挑戦を見つめる。7月20日は「体操」。オリンピックが1年延期された間に急成長した若手、19歳の橋本大輝選手などにスポットを当てる。最新の映像技術で驚異の肉体の秘密を解き明かすとともに、若手とベテランがしのぎを削る代表選考の舞台裏に密着、メダルを目指すアスリートたちの思いに迫る。

【デジタルサービス】 (2020 東京オリンピック・パラリンピック実施本部 樋口副本部長)

東京オリンピックのデジタルサービスについてご紹介する。今大会では「NHKプラス」と、特設サイトの「NHK東京2020オリンピックサイト」で、いつでもどこでも見られるデジタルの特性を生かしたサービスを実施する。「NHKプラス」では、総合テレビとEテレで放送される競技中継の同時配信を、ID登録なしでご覧いただける。また通常の番組同様に、「追いかけて再生」「見逃し番組配信」を行うほか、アプリでは期間限定の「東京2020メニューアイコン」を新設し、「日別の見逃し配信リスト」など、さまざまなコンテンツをご利用いただける。特設サイト「NHK東京2020オリンピックサイト」では、テレビで中継されない競技も含む全33競技で、およそ3000時間のライブストリーミングを行う予定だ。また放送中の競技から、試合中でも見どころシーンをいち早く編集してお届けする「速報動画」のサービスも行う。また大会の延期やコロナの影響など、さまざまな壁と向き合ってきた選手たちの思いも、記事を中心にお伝えしていく。さらに、競技結果や放送予定など、さまざまな情報をわかりやすくお伝えするため、AIを活用して知りたいことに会話形式でお答えする、チャットボットサービスを行う。このサービスは、現在の特設サイトでもお試しいただける。特設サイトは、来月中旬にはデザインを一新し、大会のさまざまな情報を本格的にお伝えしていくことになっている。

【ユニバーサル放送／サービス】 (2020 東京オリンピック・パラリンピック実施本部 樋口副本部長)

NHKでは、障害のある人もない人も、子供からお年寄りまで一緒にご覧いただける「ユニバーサル番組」を、2016年のリオ大会から放送してきた。東京オリンピックでも、この取り組みをさらに発展させた番組「みんなでハイライト」を週末に放送する。視覚に障害のある人には、空間や姿が思い浮かぶように丁寧に表現したり、時には“綿のように軽やかな演技”など、視覚の情報を触覚など別の感覚に置き換えた表現を工夫したりして、音声を聞くだけでイメージが広がっていくようにする。また、聴覚に障害のある人には、手話と字幕を使ってスタジオトークを漏らさずお届けする。スタジオには、視覚や聴覚に障害のあるゲストを招いて、多様な人たちがオリンピックを共に感じる空間を演出する。

デジタルの分野でも、新たな技術を生かしたユニバーサルサービスの特設サイトで行う。今大会、初めて実施するのが、手話CGによるリアルタイムの競技実況。手話CGは、試合展開に合わせて配信される競技データから手話のアニメーションを自動生成する、NHKが開発した新たな技術だ。手の動きだけでなく、手話で大切な眉や唇などの表情の動きもリアルに再現し情報をより伝わりやすくして、今大会ではバスケットボールで1日1試合程度実況を行うことにしている。さらに、2018年のピョンチャン大会から実施した「ロボット実況」サービスも拡充する。「ロボット実況」はNHKが開発した技術で、競技データから自動的に字幕と合成音声による実況を作り、ライブストリーミング映像とともに配信するもの。今回はバレーボールや卓球など10の競技で行う予定で、視覚障害のある方や聴覚障害のある方などのニーズに応じていく。この2つのサービスは、障害がある方だけでなく、スポーツを観戦する皆さんが、よりわかりやすく観戦できるサービスとして実施する。

なお、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、今回はオリンピック、パラリンピックともに、PV（パブリック・ビューイング）は実施しない。PVの実施を検討していた一部の施設については、自治体のワクチン接種会場として利用いただく方向で調整を進めている。

(詳細は報道資料を参照)

(2) 東京五輪・パラ キャスター・ナビゲーターについて (正籙放送総局長)

【キャスター】

オリンピックとパラリンピックのキャスターをご紹介します。

総合テレビ・BS4Kでのオリンピックの開会式を担当するのは、豊原謙二郎アナウンサーと和久田麻由子アナウンサー。そして閉会式の担当は、三瓶宏志アナウンサーと桑子真帆アナウンサー。続いて、総合テレビのパラリンピック開会式を担当するのは、杉浦友紀アナウンサーと中野淳アナウンサー。東京大会最後を締めくくるパラリンピック閉会式は、阿部渉アナウンサーと和久田麻由子アナウンサーが担当する。今ご紹介したアナウンサーは、大会期間中の中継番組やデイリーハイライトのキャスターなども担当する。

【ナビゲーター】

続いては、アナウンサーとともにNHKのオリンピック・パラリンピック放送の顔を務めていただく皆さんをご紹介します。嵐の相葉雅紀さん、櫻井翔さんに「NHK東京2020オリンピック・パラリンピック放送スペシャルナビゲーター」を務めていただくことが決定した。お二人には、オリンピック、パラリンピックの期間を通じて、競技中継のスタジオなどでMCを務め、これまでの取材や選手との交流の蓄積も生かしながら、大会の模様や注目競技の見どころ、コロナの中で困難と向き合いながら挑戦を続けてきたアスリートたちの活躍を伝えていただく。またアスリートの代表として、北島康介さんに「NHK東京2020オリンピック放送アスリートナビゲーター」を務めていただく。オリンピックに4大会連続で出場し、競泳で日本人唯一の2種目2連覇を達成した金メダリストとして、大会期間中、NHKの特設スタジオや競技場から、アスリートの視点で選手たちの闘いぶりと競技の見どころを伝えていただく。

(詳細は報道資料を参照)

(3) 総合 開発番組の放送予定 (若泉副総局長)

NHKでは、今年度、総合テレビのゴールデン・プライム帯を「“新しいNHKらしさ”を追求する番組開発ゾーン」と位置づけ、次代の看板番組を目指した、さまざまな番組を放送している。大型連休期間に引き続き、第二弾として、6月末から7月にかけては、ダイバーシティをテーマにした番組、地元の魅力を発信するバラエティー、複雑な現代社会を解説する情報番組まで、多彩な8つの番組を放送する。6月30日放送の「阿佐ヶ谷アパートメント」は、ダイバーシティをテーマにした、新しいスタイルの番組だ。地方の魅力、豊かさをお伝えする「ロコだけが知っている」は、サンドウィッチマンをMCに迎え、地域の放送局がネットワークを駆使して制作する開発番組。地元を愛してやまない人たちを「ロコ」と名付け、地元の人しか知らない、とっておきの話題をお届けする。放送は七夕の夜。情報番組では「21世紀の複雑社会を超定義」を放送する。気になるけれどわかりづらい社会事象を、ドラマやCGなどを駆使して解説する。今回取り上げるテーマは、仮想通貨とも呼ばれてきた暗号資産。今、誰もが気になるが、複雑すぎてイマイチわからない暗号資産を徹底解明する。ほかにも、身近な難問をさまざまな学問の叡智を結集して解決しようという番組や、NHKの豊富なアーカイブス映像から解き起こす新しいドキュメンタリー番組などをお送りする。

(詳細は報道資料を参照)